

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	富山県
-------	-----

学校の概要（平成 15 年 4 月現在）

学校名	富山市立月岡中学校					
学年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	3	0	8	17
生徒数	81	71	85	0	237	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」の向上をめざす中学校教育の実践
～基礎・基本の習得と小中連携教育の推進～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科（選択した理由を付すこと）

< 少人数・TT 授業実施の必修教科 >
123 年 理科（発展的・補充的な学習を充実させるため）
< 主として補充的・発展的内容の選択教科 >
1 年 数学、国語（生徒の興味関心や理解度に差が出やすい教科であるため）
2 3 年 国語、数学、英語（生徒の興味関心や理解度に差が出やすい教科であるため）
< 総合的な学習の時間 >
全学年 読書活動（落ち着いた雰囲気作りと読む力をつけるため）
全学年 プロジェクト T（全校縦割り活動）（自ら学び自ら考える力をつけるため）

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度

テーマ 「確かな学力」の向上をめざす中学校教育の実践
～基礎・基本の習得と小中連携教育の推進～

研究の見通し(仮説)

1 確かな学力を身に付けるためには、

- ・ 少人数授業やティームティーチング、習熟度別指導などで、基礎・基本や自ら学び考える力を身に付けることができる。
- ・ 発展的、補充的な学習で、個に応じた力を伸ばすことができる。
- ・ 学びの機会を充実し、学ぶ習慣を身に付けることができる。
- ・ 学力の評価を生かした指導の改善をすることで基礎基本の定着を図る。

2 総合的な学習を通して、学ぶ楽しさを体験させ学習意欲を高めることができる。

3 小中連携活動を推進することで、より教育効果を高めていくことができる。

研究内容・方法

1 指導

- ・ 少人数授業及び TT(必修教科) 1、2、3 年数学で実施
- ・ 発展的、補充的な学習(選択教科) 1 年数学、3 年国語、英語、数学
- ・ 放課後学習や家庭学習の充実(適切な宿題や課題)
- ・ 学力の実態を把握するための学力分析

2 総合的な学習の時間

- ・ プロジェクト活動(全校縦割り活動)と読書活動など

3 小中連携教育の推進による教員の資質の向上と指導の改善

- ・ 小中合同研究推進委員会の設置
- ・ 小中相互授業参観、相互授業体験の実施

平成 15 年度

テーマ 「確かな学力」の向上をめざす中学校教育の実践
～基礎・基本の習得と小中連携教育の推進～

研究の見通し(仮説)

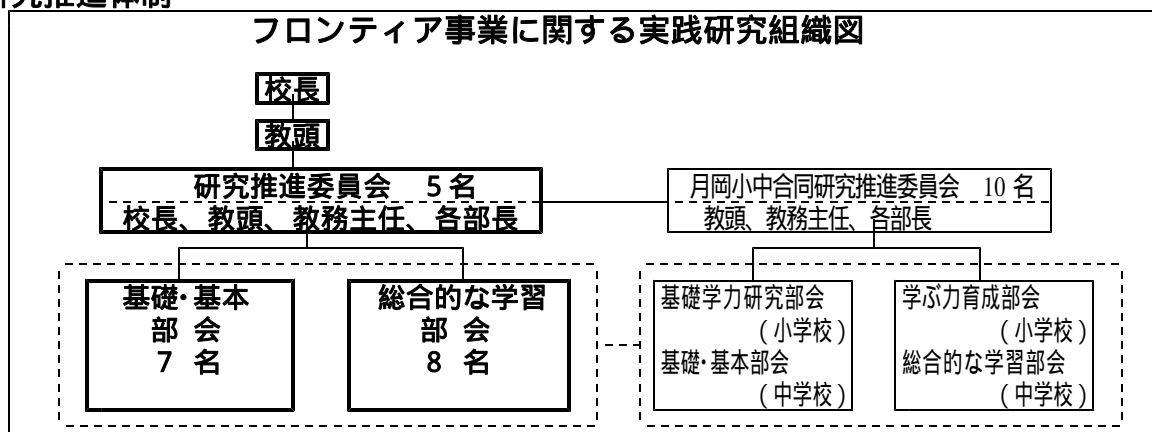
1 確かな学力を身に付けるためには、

- ・ 「課題をみつけ」「問題点を整理し」「解決方法を追究し」「計画的に解明していく」力を身に付けることが必要である。
- ・ きめ細かな指導と評価の一体化を目指すことで、学習意欲を高めることができる。
- ・ 「読み」を核に「聞いて書く力」を身に付けることで、「考えをまとめる力」「表現する力」などを向上させることができる。
- ・ 学びの機会を充実することで「学びの日常化」を促進することができる。
- ・ 少人数授業や TT、習熟度別指導などで、個に応じた力を伸ばすことができる。

平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習を通して、自ら学び自ら考える力を身に付けることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 小中連携教育を推進することで、より教育効果を高めていくことができる。 地域、家庭、小中学校の連携を充実することで、子どもの基本的な生活習慣・能力の向上を図ることができる。 <p>研究内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 指導 <ul style="list-style-type: none"> 少人数授業及び TT(必修教科：理科で実施)、発展的・補足的な学習(選択教科：国語、数学、英語で実施) 単元別指導と評価を主軸にした単元別学習の改善(診断的評価と形成的評価の実践) 各教科で「付箋による評価活動」を中心に実践(レポートや学習カードなどの活用) 学力の実態を把握するための学力分析 教科担当者(教師側)や専門委員会(生徒側)で学習コーナーの設置(生徒に学習環境の場を提供) 総合的な学習の時間...プロジェクト T(全校縦割り活動)と読書活動 小中連携教育の推進による教員の資質の向上と指導の改善 <ul style="list-style-type: none"> 小中相互授業参観、小中合同研修会、小中 TT 授業(英語活動、総合)など 子育て懇談会、家庭教育講演会の開催 地域や家庭への広報活動の充実
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 「確かな学力」の向上をめざす中学校教育の実践 ～基礎・基本の習得と小中連携教育の推進～</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <ol style="list-style-type: none"> 確かな学力を身に付けるためには、 <ul style="list-style-type: none"> 「課題をみつけ」「問題点を整理し」「解決方法を追究し」「計画的に解明していく」力を身に付けることが必要である。 きめ細かな指導と評価の一体化を目指すことで、学習意欲を高めることができる。 「読み」を核に「聞いて書く力」を身に付けることで、「考えをまとめる力」「表現する力」などを向上させることができる。 学びの機会を充実することで「学びの日常化」を促進することができる。 少人数授業やTT、習熟度別指導などで、個に応じた力を伸ばすことができる。 総合的な学習を通して、自ら学び自ら考える力を身に付けることができる。 全教科でシラバスを作成し、学習内容と評価方法についてあらかじめ理解できるようにすることで学習への参加意欲を高めることができる。 小中連携教育を推進することで、より教育効果を高めていくことができる。 地域、家庭、小中学校の連携を充実することで、子どもの基本的な生活習慣・能力の向上を図ることができる。 <p>研究内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 指導 <ul style="list-style-type: none"> 少人数授業及び TT(必修教科：国語で実施)、発展的・補足的な学習(選択教科：国語、数学、英語で実施) 単元別指導と評価を主軸にした単元別学習の改善(診断的評価と形成的評価の実践) 各教科で「付箋による評価活動」を中心に実践(レポートや学習カードなどの活用) 学力の実態を把握するための学力分析 教科担当者(教師側)や専門委員会(生徒側)で学習コーナーの設置(生徒に学習環境の場を提供) 総合的な学習の時間...プロジェクト T(全校縦割り活動)と読書活動 わかりやすいシラバスの作成 小中連携教育の推進による教員の資質の向上と指導の改善 <ul style="list-style-type: none"> 小中相互授業参観、小中合同研修会、小中 TT 授業(英語活動、総合)など 子育て懇談会、家庭教育講演会の開催 地域や家庭への広報活動の充実
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

- ・ **聞いて書く力をつけるために**
付箋による評価活動を全教科で実施。聞いて書く力を高める実践を意識することができた。
- ・ **学びの日常化のために**
専門委員会や教科担当者から掲示や放送などを使って生徒に考える場を設定した。興味をもつ生徒が少しずつ増加してきている。
- ・ **学力分析から生徒の実態把握**
定期評価や中教研学力調査、標準学力調査を分析することで、身に付けさせたい力が分かり、授業の取り組み方に工夫が見られるようになった。
- ・ **プロジェクト、読書活動**
月岡中学校から地域などに発信する課題実践活動の場となった。
落ち着いた雰囲気を読書する習慣が身に付いてきた。
- ・ **小中連携教育**
相互授業参観 中学校3回、小学校5回程度実施（学習参観や校内研修会、学校訪問研修など）
TT授業 英語活動（小学校6年、5年）3回程度実施
合同研究推進委員会 2回実施（7月、1月）
合同研修会 3回実施（7月、8月、1月）
- ・ **研究発表会（中間発表）のシンポジウムから**
地域、家庭、小中学校が同じ目標に向かって、「みんなで子育て」をする大切さを意識することができた。（広く子どもの可能性を伸ばすために、大人が子どもとの関わりを積極的にもつ必要性）
「子育て懇談会」を実施したことで、地域の方々の子どもの関わり方や様子などを情報交換することと、地域の人々の教育への願いを把握することができ、みんなで子育てしていく必要性を新たに意識することができた。

2 今後の課題

- ・ きめ細かな指導を実践していくためには、「目標と指導と評価」を一体化した単元構成を見直し、改善していく必要がある。
- ・ 基本的な生活習慣や生活能力の定着を進めるためには、地域・家庭・学校の連携を充実させる取り組みを考えていく必要がある。
- ・ 学びの機会を充実させるためには、各教科ごとに学習コーナーなどを充実させ、教室内環境も整えていく必要がある。
- ・ 総合的な学習の時間では教師側が生徒にどんな力を付けたいのか明確化し、生徒にもこの時間の意義と学習方法を理解させる必要がある。
- ・ 小学校と話し合いをもちながら、研修計画などの打合せを十分行い、年間行事計画に位置づけていく必要がある。

学力把握のための学校としての取組

- ・ 定期評価調査の実施（1、2学期 各2回、3学期1回）
- ・ 中教研学力調査の実施（年2回） 但し1年は1回
- ・ 標準学力調査（年1回） 1年生と2年生
- ・ 夏休み、春休み明けテスト（各1回）
- ・ 実力テスト（1、2年生 年1回、3年生 年8回程度）
標準学力調査を実施して、全国平均との比較や前年度の学習状況などと比較検討し、授業改善の参考資料としている。
中教研学力調査では、5教科すべてで学力分析を実施。正答率や県平均との比較などを行い生徒の学力把握に努めている。
定期評価では、既習の問題を忠実に出題することで、基礎学力の定着を把握しようと努めている。一方、記述式の問題も出題することで、理解力や発展的に考える力が身に付いたかどうかを判断している。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会、説明会等の開催実績及び開催予定

本年度は、月岡小学校と合同で研究発表会半日の中間発表を開催した。

期 日 平成15年11月26日(水) 13:00～

公開授業 数学、英語、理科、音楽、美術、家庭

シンポジウム 「みんなで子育て」(地域の方、保護者、先生方など参加)

来年度は、本年度と同じように小中学校合同で研究発表会(1日)を開催する予定にしている。

期 日 平成16年11月25日(木)

公開授業 総合的な学習の時間(プロジェクトT)、その他未定

研究協議会 実施予定

フォーラム テーマ等詳細については未定

HP作成等の工夫の実績及び今後の予定 (http:www.....)

HP作成の準備中である。

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	✓ 14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	✓ 7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	✓ 少人数指導	T.Tによる指導		
	その他			
【研究教科】	✓ 国語	✓ 社会	✓ 数学	✓ 理科
	✓ 外国語	✓ 音楽	✓ 美術	✓ 技術・家庭
	✓ 保健体育	✓ その他(総合的な学習の時間)		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		✓ 有	無	